

- 1 古墳の周囲に立て並べられた、当時の権威を示す土製の焼き物を何という？
① 壁画 ② 勾玉 ③ 埴輪 ④ 須恵器
- 2 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？
① 推古天皇 ② 倭の五王 ③ 天智天皇 ④ 聖徳太子
- 3 5世紀ごろ、日本へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々が由来した朝鮮半島の国家を何という？
① 百済 ② 任那 ③ 新羅 ④ 高句麗
- 4 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？
① 古事記 ② 千字文 ③ 日本書紀 ④ 論語
- 5 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？
① 副葬品 ② 封土 ③ 木棺 ④ 壁画
- 6 円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形をしている、古墳時代に作られた日本最大規模の墓を何という？
① 前方後方墳 ② 円墳 ③ 前方後円墳 ④ 方墳
- 7 5世紀のヤマト王権が、外交のために使者を派遣していた中国の王朝はどこ？
① 隋 ② 宋 ③ 唐 ④ 漢
- 8 6世紀半ばに、日本の欽明天皇へ仏像や経典を贈り、仏教を公式に伝えた百済の王は誰？
① 欽明天皇 ② 用明天皇 ③ 敏達天皇 ④ 聖明王
- 9 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？
① 道教 ② 仏教 ③ 神道 ④ 儒教
- 10 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？
① 東晋 ② 北朝 ③ 南朝 ④ 西魏
- 11 仏教を深く信仰し、政治や文化に取り入れることで、新しい文明の定着に努めた人物は誰？
① 聖徳太子 ② 中大兄皇子 ③ 物部守屋 ④ 蘇我馬子
- 12 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？
① 三種の神器 ② 小野妹子 ③ 聖徳太子 ④ 倭の五王
- 13 6世紀、日本への仏教伝来に際して、その導入に賛成した有力な豪族は誰？
① 藤原氏 ② 蘇我氏 ③ 中臣氏 ④ 物部氏
- 14 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？
① 大王 ② 天皇 ③ 関白 ④ 将軍
- 15 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？
① 円墳 ② 前方後方墳 ③ 前方後円墳 ④ 方墳
- 16 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？
① 石舞台古墳 ② 高松塚古墳 ③ 江田船山古墳 ④ 稲荷山古墳



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る 答え	言えた
1	埴輪 は粘土で作った土製品で、円筒形や家形、人物、馬などの形をしています。	3 埴輪	☐
2	宋書という中国の歴史書に登場する「 讃・珍・済・興・武 」の5人の王を指します。	2 倭の五王	☐
3	百済 から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。	1 百済	☐
4	『 論語 』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。	4 論語	☐
5	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な 副葬品 です。	1 副葬品	☐
6	前方後円墳 は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。	3 前方後円墳	☐
7	ヤマト王権の指導者たちは、半島での影響力を強める正当性を得るため、南朝の皇帝へ使者を派遣しました。	2 宋	☐
8	聖明王 は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。	4 聖明王	☐
9	仏教 の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。	2 仏教	☐
10	当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「 南朝 」と主に外交関係を持っていました。	3 南朝	☐
11	聖徳太子 は仏教の教えを「和」の精神として政治の基礎に据えました。	1 聖徳太子	☐
12	記録に残る王は、 讃・珍・済・興・武 の5人です。	4 倭の五王	☐
13	蘇我氏 は、百済から伝わった仏教の持つ高度な知識や技術にいち早く目をつけました。	2 蘇我氏	☐
14	この時期の最高権力者は「 大王 （おおきみ）」という称号で呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。	1 大王	☐
15	前方後円墳 は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。	3 前方後円墳	☐
16	埼玉県にある 稲荷山古墳 から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。	4 稲荷山古墳	☐

言えなかった用語ノート